里山自然観察隊の観察日誌（平成２０年度）

「宇部市地球温暖化対策ネットワークの環境教育支援事業」

「環境省こどもエコクラブ登録事業」

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

１．野草観察（４月１９日、隊員４１名、保護者３１名、会員１８名）

６年目を迎えた観察隊、今年最初は「食べられる野草」、総勢９０名の大所帯でしたが、まずまずの天候の中、無事終えることができました。例年、ビオトープ内にある食べられる野草２０種を、ゲーム形式で子どもたちに探しもらいますが、いつも３０分くらいで一番早い子は探してしまうので、今年はちょっと難しくして、「カラスノエンドウ」「スズメノエンドウ」「カスマグサ」など、似ていて紛らわしい種類を入れて、子どもたちに頭をひねってもらうような問題にしました。ところが今年も、４０分ほどで次々に全問正解者が続出、２０問できた８名と、１９問の４名、合わせて１２名に二俣瀬券を配りました。

タケノコやタラの芽、シイタケなど材料の準備、そして天ぷらを揚げていただいた会員の皆様に感謝いたします。

採取した野草２０種（ハコベとウシハコベは見本を間違ったので訂正してあります）

シロバナタンポポ、セイヨウタンポポ、ノアザミ、ハハコグサ、オニタビラコ、フキ、ヨメナ、ヨモギ、セリ、タネツケバナ、ナズナ、オランダガラシ、オランダミミナグサ、サワハコベ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、ノビル、ツクシ、ワラビ

（美濃和　信孝　記）

２．野鳥観察（５月１７日、隊員３０名、保護者２２名、会員１４名）

２５度を越える暑さの中、里山自然観察会の第２回として野鳥観察を実施しました。午後２時から３時半と野鳥にとっては休息時間にあたり、鳥影はイマイチでした。観察スタートの市民センターでは巣箱からシジュウカラが飛び出して歓声があがりました。小学校校庭を横切り、厚東川にでると「青い宝石」カワセミが水面を飛びました。耕運機で田を耕すそばで白いサギが虫を採っていました。ダイサギ？コサギ？図鑑をみせて隊員たちに同定させました。正体はチュウサギでした。オオヨシキリのギョギョシ、ギョギョシという鳴き声が川の葦原で聞けました。期待したホトトギスやキビタキのさえずりは聞けませんでした．昭和山の鉄塔に営巣中だったミサゴは管理工事作業で営巣放棄のようです。６０余名の大集団が移動するので、野鳥もびっくりでしょう。暑さもなんのその、子供たちは元気一杯の観察会でした。

	種　名	科　名	2004 年 5 月 22 日	2005 年 5 月 21 日	2006 年 5 月 20 日	2008 年 5 月 17 日
1	ダ　イ　サ　ギ	(サ　ギ　科)	○	○	○	
2	コ　サ　ギ	(サ　ギ　科)		○		
3	ア　オ　サ　ギ	(サ　ギ　科)		○		○
4	カ　ル　ガ　モ	(ガンカモ科)	○	○	○	○
5	ミ　サ　ゴ	(ワシタカ科)	○			
6	ハ　チ　ク　マ	(ワシタカ科)	○		○	
7	ト　　ビ	(ワシタカ科)	○	○	○	○
8	キ　ジ　バ　ト	(ハ　ト　科)	○			○
9	ド　バ　ト	(ハ　ト　科)			○	○

10	ホトトギス	(ホトトギス科)	○		○	
11	カ　ワ　セ　ミ	(カワセミ科)	○	○	○	○
12	コ　ゲ　ラ	(キツツキ科)		○	○	
13	ヒ　バ　リ	(ヒ　バ　リ　科)		○	○	
14	ツ　バ　メ	(ツ　バ　メ　科)	○	○	○	○
15	セグロセキレイ	(セキレイ科)		○	○	○
16	ヒ　ヨ　ド　リ	(ヒヨドリ科)	○	○	○	○
17	モ　ズ	(モ　ズ　科)			○	
18	ウ　グ　イ　ス	(ヒ　タ　キ　科)	○	○	○	○
19	シジュウカラ	(シジュウカラ科)		○		○
20	ヤ　マ　ガ　ラ	(シジュウカラ科)	○			
21	メ　ジ　ロ	(メ　ジ　ロ　科)	○		○	○
22	ホ　オ　ジ　ロ	(ホオジロ科)	○	○	○	○
23	カワラヒワ	(ア　ト　リ　科)	○	○	○	○
24	ス　ズ　メ	(ハタオリドリ科)	○	○	○	○
25	ハシボソカラス	(カ　ラ　ス　科)	○	○	○	○
26	ハシブトカラス	(カ　ラ　ス　科)	○	○		
27	チュウサギ	(サ　ギ　科)				○
28	オオヨシキリ	(ヒ　タ　キ　科)				○
		観察種数	１８	１８	１９	１８

（寺森　正行　記）

３．昆虫観察（６月２１日、隊員２５名、保護者１５名、会員１１名）

今回は、トンボが７種類（１９年度：１７種類、１８年度：１３種類）、蝶が８種類（１５種類、１４種類）、バッタや甲虫他が１３種類（１８種類、１５種類）他にもまだ、名前のわからないものあり。残念ながら、昨年、１昨年に比べると少ないのですが、雨降りの中、いろいろ捕まえてくるものです。全く感心します。多分初めての雨の中での実施でした。飛んでいる虫は少ないものの、雨を避けるため、葉の裏で休んでいる蝶や、雨の中を平気で飛んでいるイトトンボを観察でき、普段とはまた違った虫の姿を観察できました。なかなか、いい観察会でした。

トンボ	蝶	バッタ・甲虫など
【イトトンボ科】 キイトトンボ、クロイトトンボ、ベニイトトンボ、ムスジイトトンボ 【アオイトトンボ科】 アオイトトンボ 【モノサシトンボ科】 モノサシトンボ 【ヤンマ科】 ギンヤンマ	【シジミチョウ科】 ベニシジミ、ムラサキシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ 【シロチョウ科】 キタキチョウ 【セセリチョウ科】 オオチャバネセセリ 【タテハチョウ科】 ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ	【バッタ】 ツチイナゴ、キリギリス、ショウリョウバッタ、ナナフシ、カマキリ他 【甲虫】 コアオハナムグリ、セマダラコガネ、ラミーカミキリ、コガネムシ他 【カメムシ】 クモヘリカメムシ 他
４科７種類	４科８種類	１０種類以上

（藤井　義晴　記）

４．田んぼの生き物（７月１９日、隊員１９名、保護者１３名、会員１３名）

まず、何人かの隊員に田んぼに入ってもらって、手押しの除草機でアイガモと共に除草をしてもらいました。生き物調査は田んぼではなく、ため池や止水池や湿地帯で、網を使っていろいろな生き物を捕まえてもらいました。主にカエルを捕まえてもらいましたが、まだオタマジャクシからやっと成体になった小さなカエルが多かったため、ヌマガエルでは背中の白いスジが判別しにくかったり、ニホンアマガエルとシュレーゲルアオガエルの区別が難しかったりしましたが、多くのカエルを捕まえてくれました。

カエル	魚類	水生昆虫	昆虫他など
ヌマガエル（４６） 背に白いスジ（１０） ツチガエル（７） ニホンアカガエル（５） シュレーゲルアオガエル（１２） ニホンアマガエル（５２） 総数（１２２） オタマジャクシ多数	メダカ カワムツ ドンコ	タイコウチ マツモムシ トンボのヤゴ多数 コオイムシ アメンボ マメゲンゴロウ ガムシ	イシガメ タニシ カナヘビ クモ ヌマエビ スジエビ
５種類	３種類	７種類	６種類以上

（西原　一誠　記）

５．川の探検（８月２３日、隊員１９名、保護者８名、会員１７名＋学生６名）

川の探検（須賀河内川）　　（原田　満洲夫　記）　名称の（　）内は二俣瀬地域の呼び名

前日の雨で　厚東川は水位が上がり、須賀河内川は水量も増え少し濁って心配しましたが、子供たちはそんなこと、屁の河童。自分が小さい時もそうだったように好きなことをするときは、少々の壁は押しのけてでも行った事を考えても中止にすることができず、少し無理であったが、大人も子供も我を忘れて魚を追いかけまわり、行ったことは成功だったといえます。

いずれの場所（厚東川、須賀河内川）も数年前より魚の種類と数がへって捕獲できた魚は一般的カワムツ（ハヤ）、ドンコ、スジエビ（モエビ）などであった事が残念でたまりません。

数年前までいた、カマツカ（ホウセンボウ）、シマドジョウ（スナドジョウ）、オヤニラミ、ニゴス、ギギ（ギギユ）、ヨシノボリ（ゴリまたはゴリン）、モクズカニ（ケガニ）は今回見つけることはできませんでした。もちろん私たちが小さい頃捕れた　テナガエビ、ナマズ、ウナギ、アユ、ウグイ（イダ）、アブラボテ（タナゴ族）は全く見られず厚東川水系のこの近辺では絶滅したのではないだろうか？と危惧されます。

ただし、和名“アカザ”という名の当地では初めて聞く魚が厚東川で発見？されました。当地二俣瀬では違った名前でこれは前からおるじゃないか！という人もおられるかもしれませんが、有識者が見つけたことは確かで今後この様な形態（新しく見つけだしたり、呼称が違っていたり）がちょくちょく出てくることを期待したいです。

ビオトープの池では　スジエビ（モエビ）の幼魚がたくさんとれたことが、何よりの慰み

でした。ただウシガエルのオタマジャクシの数が魚より多かったことはエコアップとして考えさせられることになりました。

いずれにせよ子供の興味も一番だし、川の中の生き物の棲息状況を継続調査していくことが「里山自然観察隊」の宿命であろうかと思います。

川の探検（厚東川）　　（関根　雅彦　記）

今回初めて厚東川下りを企画しました。午前中の下見では、曇り空の下、涼しい風が吹き、ほんの数日前までの猛暑がうそのよう。左岸から川に入ると、足もとが見えないほど濁り、水温も低くてびっくり。こんなのじゃ水に浸かれない！見えない石につまずきながら右岸に移動すると、ダムの放流水の比率が高いためか水が暖かく、濁りも少なめ。なんとか水に体を浮かべることができました。しかし、アユの食み跡は目立つものの、肝心の魚影が少ない！さらに、途中の橋付近は大人でも立っているのが難しいほど流れが速く、橋を過ぎたところで浅くなって白波が立っており、流されると勢いよく岩にぶつかってしまいそう。残念ですが川下りは中止し、河川公園周辺での探検に切り替えることにしました。

子供たちを２人ずつ４グループに分け、グループごとに水中カメラを渡し、担当会員を決めて川に入ります。まずワナをしかけ、つぎに手網を手に水中メガネで観察です。観察開始早々、松原会員が立派なオヤニラミを Get! 隊員も会員も、われもわれもと色めき立ちます。しかし、午前中の下見どおり、水中観察ではいつもならたくさん泳いでいるオイカワ・カワムツがほとんど目につかず、ヨシノボリが石の間を動き回っているのが見えるだけ。当然、ワナやつり・手網もほとんど収穫なく、ヨシノボリや稚魚が少しずつ増えていくだけ。それでも子供たちは元気に走り回ります。走り回るのに忙しくて、水中カメラの出る幕がないくらい。最終的には、会員が投網でオイカワやムギツク、スナドジョウなどを捕獲。隊員も手網で貴重なアカザを Get するなど、条件が悪い中でそれなりの成果をあげました。著者個人的には、隊員が捕まえたえらく元気な遊泳型のカゲロウが珍しかった。

成果報告も終わり、時間が来たのでさあ解散というとき、子供たちから「川下りはせんの？」の声。「したい人だけやってみようか？」と問うと、全員「やりた～い」。やっぱり川下りが楽しみだったんですね。岩に激突しないよう美濃和会員に下流に立ってもらい、一人ずつ急流に身をまかせます。スタート地点ではさすがに怖そうにしているものの、あっという間に流れ下ると、「１回だけ？」と満足しない様子。「あとはお父さんと一緒にやってね」、となだめます。少々流れがあってもこの方法なら実行できそう。来年は、条件が悪くてももっと楽しめるものにできそうです。

６．昆虫観察（９月２０日、隊員１９名、保護者１３名、会員８名）

台風一過、とても良い天気になり、子供達は大張りきりでビオトープへと向かった。トンボの管さんを除けば、チョウの藤井さんやバッタの松原さんも欠席のなかで、どうなる事かと思案しながら進めたが、予想以上に多くの昆虫を捕まえてくれた。専門家の管さんは、ギンヤンマやオオシオカラトンボは捕まえてもらったが、隊員の冨田君は、コシボソヤンマ（ヤンマ科）を捕まえた。子供ながら、たいしたものである。最後に、管さんから網を使ってのトンボの捕まえ方を説明してもらったが、子供達が興味を持ってくれれば、将来は昆虫博士も出てくかもしれないと感じました。

トンボ：コシボソヤンマ、ギンヤンマ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、ベニイトトンボ、ヒメアカネ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、ハグロトンボ、キイトトンボ

チョウ：アゲハチョウ、キアゲハ、クロコノマチョウ、ナミアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、

ヤマトシジミ、ヒカゲチョウ、コミスジチョウ、キチョウ、ウラギンシジミ、イチモンジセセリ

バッタ他：トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クルマバッタ、エンマコオロギ、コバネイナゴ、キリギリス、セスジツユムシ、コカマキリ、オオカマキリ

（西原　一誠　記）

７．森の探検（木の実、キノコ）　（１０月１８日、隊員２４名、保護者１８名、会員７名）

好天に恵まれ、昭和山と須賀河内川沿いを散策しました。例年に比べ今年は参加者も多く、熱心にノートにメモを取っていました。昨年沢山採れたアケビは数も少なく、ほとんどが実を開いていました。でも、フユイチゴ・ノブドウ・エビヅルなど沢山食べられる実を見つけて、おいしそうに食べていました。カキ（渋いやつ）やクリも採って帰る人もいました。シイの実も今年は少なかったです。キノコは隊員が多く見つけてくれましたが、名前の同定までには時間的に出来ませんでした。

木の実　ドングリのなかま：アラカシ、コナラ、シイ

球果：アカマツ、ネズミサシ、オオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシ、メタセコイア

液果：エビヅル、ノブドウ、カキ、フユイチゴ、マンリョウ、ヤブコウジ、サルトリイバラ、

ヒサカキ、ガマズミ、ゴンズイ、カマツカ、クロミノサワフタギ、コマユミ、ソヨゴ、

ノイバラ、ヤブムラサキ、ムラサキシキブ、ネジキ、シャシャンボ、アオツヅラフジ、

ウメモドキ

その他：アケビ、ムベ、クチナシ、リョウブ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、クズ、ニセアカシア

キノコ　オニタケのなかま：１種（オニタケ？）

シメジのなかま：３種（キシメジ？、クサウラベニタケ？、？）

テングタケのなかま：２種（シロツルタケ？、？）

イグチのなかま：１種

サルノコシカケのなかま：２種

ホコリタケのなかま：１種（ノウタケ？）

（西原　一誠　記）